

のちに西福寺は無住となり、さらに天保年間社中に変死があつて、社内を汚したので、社頭を焼き払つて、新宮を造営した。

弘北年間、祭主安藤筑前守、神号を勸請して、正一位戸上稻荷大明神と号した。

祭日は九月十七日、明治八年官命によつて、日高見稻荷神社に合祀された。のちに信濃町の人たちによつて再建された。

(「長沼名義考」より)

滝 不 動 尊

《 滝 》

無底明観という僧が、この地に来る時、大和国の極楽寺から、運慶の作といわれる不動明王の像を背負つて来た。そしてこの地に一寺を建てて、住んでいた。

この不動様は、高野の赤滝の不動、成田山の不動に並んで、日本三不動といわれた。

北條時宗の時代に、蒙古が攻め寄せて来た。全国の神社、仏閣に敵国降伏の祈願をした。その時、源某という天皇の勅使が来て、祈願した。蒙古は神風によつて敗れ去つた。これ神仏の加護と、特に不動尊の靈験あらたかのためと、朝廷より菊花の御紋章を頂いたという。

戦国時代には、武田信玄や近くの城主や、豪族などがみなここで戦勝祈願したという。不動堂の正応二年の棟札には、延寿山清滝寺明観の名が書かれてある。梓衝長楽寺の末寺だった。

「ありがん堂」の三式板碑には「昔、紀州高野の僧侶だった明観が、今は石姫山の住僧になったように記